



社会福祉資料情報

「沖縄・水俣特設コーナー」

当研究所には二つの書庫があります。一つは三研究所で利用している共同書庫と、もう一つは事務室に隣接する研究所書庫です。共同書庫は研究棟1階の北側にあり、図書（社会科学関係以外）、製本した雑誌、寄贈された大学紀要や行政資料、今までに当研究所で刊行した叢書、所報、情報誌などを所蔵しています。研究所書庫には社会科学に分類される図書と沖縄・水俣関係の図書、他にマイクロフィルムやビデオテープなどを所蔵しています。また、最近受け入れた雑誌や大学紀要は所長室に、新聞（沖縄タイムス、琉球新報）や加除式図書は事務室に所蔵しています。

今回は研究所書庫にある沖縄・水俣特設コーナーについて紹介します。この特設コーナーは、図書の中で沖縄・水俣に関係するものを一ヶ所に集めて所蔵している場所のことです。図書館のOPAC蔵書検索で調べると、所在が“社会福祉研究所特設”と表示されます。

沖縄と一言で言っても、沖縄戦や戦後27年間占領下にあったこと、集団自決や従軍慰安婦、米軍基地問題、民族問題など様々な出来事が起こり、まだ今も解決していないことがたくさんあります。ハンセン病問題もその一つです。全国15ヶ所あるハンセン病療養所（私立含む）のうち、2ヶ所（沖縄愛楽園、宮古南静園）は沖縄にあります。また、水俣病は日本の公害の原点とされています。

多くの人の体験や証言にもとづいた図書や写真集は、当時の様子や状況、人々の思いを現代の私たちに伝えるものです。この特設コー



ナーに配架している図書を紹介すると、“琉球沖縄写真絵画集成①～⑤（日本図書センター、1997）”は、500年余に及ぶ琉球王国の時代から廃藩置県で日本の一県となり、米軍支配下を経て現在に至るまでの経緯をうかがうことができます。水俣病を通して、亡くなった生き物たちの鎮魂について語り続ける“石牟礼道子全集”はわたしたちの住む環境や自然、これからのことについて考えさせられます。

図書館で本を探す時、OPACである程度調べて所在を絞り、実際に本の内容を見ながら探していくという場合が多いのではないかと思います。書架を歩きながら、目的の本以外で探していた本や興味のある本に遭遇することもあります。研究所の図書は閉架式という利用形態をとっているため、利用者の方が書架へ行き、書架上の図書を手にとって拾い読みをすることが難しい状況にあります。当研究所の蔵書を知ってもらい、利用していただきたいと思い、他の図書とは別に配架しているこの特設コーナーを紹介しました。新着図書や行政資料はホームページに載せるようにしていますが、他の資料も紹介していければと思います。是非ご利用下さい。

（社会福祉研究所 事務室 木村憲一）